【論文】

戸外遊びを中心とした子育て支援の実践研究
ー地方自治体と私立幼稚園の取り組みー

Practical Study of Childcare Support Based on Outdoor Play: Efforts of the Local Government and the Private Kindergarten

中村　俊之

未就園児とその保護者が対象となる子育て支援において、その活動場所は地域子育て支援拠点としてのコミュニティーセンターや公民館等での室内を中心に行われている。本研究は地方自治体と私立幼稚園において、戸外を拠点とし自然体験活動を取り入れた子育て支援の実践を分析し、室内では体験できない戸外で遊ぶ活動を通して子育て支援の目的を達成できることが示唆された。

キーワード：子育て支援、戸外遊び、自然体験活動、保育内容「健康」、野外教育

1　緒言

少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大等が問題となっている。これに対応するため、現在わが国では地域の子育て支援活動が推進されている。地域による子育て支援は、乳幼児のいる子育て中の親子が気軽に集い、親子の相互交流や子育ての不安・悩みの相談（育児相談)、情報提供等を目的としている。地域の身近な場を提供するにあたりその活動場所は、コミュニティーセンターや公民館等での室内を中心に行われている。また保育所や幼稚園、認定こども園においても各施設の特性を生かし子どもの健やかな育ちに向けた子育て支援を行なうことが求められている。

室内活動を中心とした子育て支援から活動拠点を戸外に移し、戸外遊びを中心とした活動にできないかと海南市教育委員会生涯教育課から依頼があり、海南市わんぱく公園（和歌山県海南市大野中）でプログラム開発を行い実施した。またこのプログラム展開を応用して和歌山信愛女子短期大学附属幼稚園（現在は和歌山信愛幼稚園に名称変更）にて戸外を活動拠点とした「未就園児クラス　つぼみ組(月曜日)」として、未就園児とその保護者との親子教室を実施した。

本研究は、活動の拠点を戸外を中心とした自然体験活動のアプローチから行われた子育て支援を対象に、その実践を分析し今後の課題を示した。

2　研究の目的と方法

2.1　目的

戸外遊びとは、屋外に出て自然に触れながら遊ぶことをいう。戸外遊びは屋外に出ることにより、自然に触れたり大人数で遊ぶことで仲間意識が芽生えたり身体全体を動かせたりと、室内とはまた違った遊びや感覚を養うことができる。しかし昨今では環境汚染や社会状況の悪化のために遊ぶ場所を制限されたり、戸外遊び自体が制限されることもある（谷田貝　2019)。また乳幼児の保育内容「健康」においても高いところやでこぼこ道、坂道など多様な環境に合わせて様々な身体の動きを獲得したり、子どもが戸外で過ごすことの心地よさや楽しさを味わうことが大切である

と示している。そのような現状の中で子育て支援の目的を達成させるための場の提供が室内だけでなく、戸外で行われる意義は大きいと考えられる。

本研究は、海南市わんぱく公園と和歌山信愛幼稚園での戸外遊びを中心とした子育て支援の実施状況を明らかにするとともに、ねらい・活動内容や参加者数など効果的な実施方法の検討を目的とする。

2.2　方法

2012～2013年度に海南市わんぱく公園で実施された「子育てひろば」と 2013 年度に和歌山信愛幼稚園で実施された「未就園児クラス　つぼみ組（月曜日）」に関して、ねらい・プログラムの具体的な活動内容を示した。また参加者数に着目し、他の施設や曜日との比較による分析を行う。

2.3　先行研究

活動拠点を提示した子育て支援活動の研究としては、児童館を中心とした子育て支援活動（成田　2019）、幼稚園における子育て支援活動の実践（諸川・新山　2015）、幼稚園での地域子育て支援活動の問題点と課題（東・石田・佐藤・杉山　2006）等がある。このようにコミュニティーセンター・公民館・児童館や幼稚園・保育園等での室内を活動拠点とした実践研究や調査研究はあるが、本研究のような年間を通して、集合から解散までを戸外を拠点とし自然体験を中心とした活動を行った自治体や幼稚園での子育て支援の実践の研究はない。

3　子育てひろば

3.1　概要

海南市教育委員会生涯学習課主催の「子育てひろば」は、海南市内のコミュニティーセンター・公民館等、計 9 カ所の拠点で月 1 回（8 月は除く）、午前 10 時から 11 時 30 分で行われる。未就園児とその保護者が対象の子育て支援で、どの開催場所でも、何回でも自由に参加が可能である。子ども一人につき 100 円の参加費を徴収する。9 カ所の活動拠点の中の 1 つに海南市わんぱく公園があり、2012 年から子育てひろばをこの場所で実施することとなった。本研究は 2012・13 年度の実践を報告する。

また本研究で用いた利用者数に関するデータは海南市教育委員会生涯教育課から提供いただき、個人を特定しない形で掲載することの承諾を得た。

3.2　実施内容

当初、他の開催場所と同様の時間帯での活動時間を想定していたが「子育てひろば」の開催前に当施設の利用もしたいという保護者からの要望により、9 時 30 分受付、10 時 30 分～11 時 30 分の活動時間で実施することとなった。基本的な 1 日の流れは下記の通りである。指導者は、筆者と担当者（社会教育指導員）1 名と保育士 2 名の計 4 名で行った。

- 9 時 30 分　受付（現地　風の子館）
  各自、自由あそび。
- 10 時 30 分　集合（野外劇場：芝生の屋外広場）
  ごあいさつ・手遊び・歌
  リズム体操
- 10 時 40 分　今月のプログラム（主活動）の説明・
  諸注意
- 10 時 45 分　プログラム開始
- 11 時 20 分　プログラム終了（片付け）・集合
  次回のインフォメーション
- 11 時 30 分　ごあいさつ（さようなら）

また 2012～2013 年度に実施したプログラム内容を、表 1 に示した。海南市では戸外で行う子育て支援は初めての試みであったため、入念な時間を費やしプログラム立案などの打合せや準備等を行った。その準備段階の中で確認された、わんぱく公園で実施する子育てひろばの骨子を次のように定め、具体的なプログラムに反映させることになった。『子育てひろばの目的である①交流・相談・援助や情報提供の場②気軽に集い、学び合う場③出会いと仲間づくりの場④憩い・育ちあいの場⑤のんびりおしゃべり・ほっと一息できる場を自然体験と運動体験を通して提供すること』。

その背景には、今までの室内での子育てひろばでは行動が制限されるため、特に男児がもっと活発に動ける場を提供してほしいという保護者からの要望があり、戸外で身体

表１　子育てひろば　実施プログラム（2012・2013 年度）

月	2012（H24）年度	2013（H25）年度	リズム体操	手遊び・歌
4	たんけんしよう！はっけんしよう！ いきものさがし	春の自然を見つけよう！	どうぶつ体操１・２・３	トントントンアンパンマン
5	こいのぼりとあそぼう！	手形でつくろう！こいのぼり！！		おいでおいで
6	芝すべりであそぼう！	ぱっちんがえるであそぼう！		キャベツの中から
7	水あそび くらげ作り、ペットボトルじょうろ	水あそび 水風船、じょうろ		だーんごだんご
9	ジャンボシャボン玉であそぼう！	フィンガーペインティングであそぼう！	どんぐり体操	あーたま、かーた、ひざポン
10	運動会ごっこ （玉入れ、パラバルーンなど）	運動会あそび		グーチョキパーで何つくろ
11	どんぐりひらい　マラカスづくり	どんぐり・落ち葉ひらい		いっぽん指ちょんちょんちょん
12	サンタさんさがし ～サンタの落とし物～	音まね、声まね　まねっこ・まねっこ！		コンコンクシュン
1	風とあそぼう！ （たこ揚げ、パラシュート作り）	ジャンボすごろくであそぼう！	動物列車	むすんでひらいて
2	鬼退治に出かけよう！ （桃太郎ごっこ）	鬼退治に出かけよう！ （桃太郎ごっこ）		おにのパンツ
3	親子ゲーム遊び	親子ふれあい遊び・DVD鑑賞・修了式		
雨天プログラム	スタンプでビンゴ、風船であそぼう	スタンプでビンゴ、新聞紙であそぼう		

を使った遊びが中心の子育てひろばを開催できないか、と検討を進めてきた経緯があった。しかしながら対象は未就園児であるため月齢によって動きや体力に個人差がある。そこでその月に行うプログラムのねらい・内容等、実施する上でのポイントを保護者に向けて適切に伝達することを心がけた。この説明の後、自分の子どもの様子を見ながら保護者自身が工夫して取り組んでもらうように促した。結果、活動に広がりが出て、それぞれの家族に合った遊びに発展していった。一方、遊びを提供する側としては多様な活動を想定して準備物を用意することとなった。

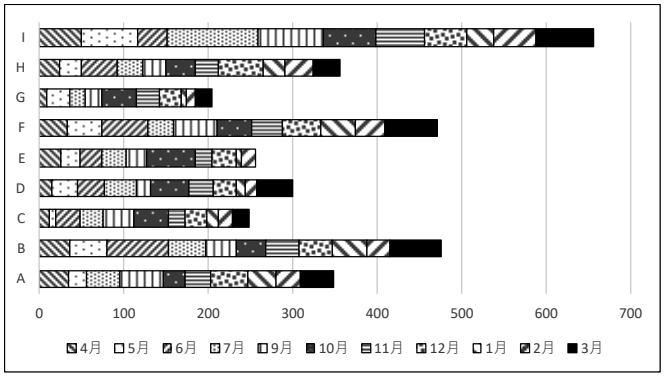


図１　子育てひろば参加者数（名）：施設別（2012 年度）

3.3　結果

2012 年度の子育てひろばの参加状況（8 月は除く）を図1～3 に示した。図１は、9 カ所の活動拠点の参加者数（子どもと保護者の計)の総合計をグラフに示したものである。わんぱく公園（Ｉ）が他の施設の 8 カ所（A～H）と比べ、年間の参加者数が多いことが分かる。また図２は、わんぱく公園の参加者数（子どもと保護者の計）と全施設（9 カ所）の活動拠点の参加者数（子どもと保護者の計）の平均を各月毎にグラフで示したものである。６月を除きわんぱく公園（Ｉ）が９つある活動拠点の全施設平均よりも参加

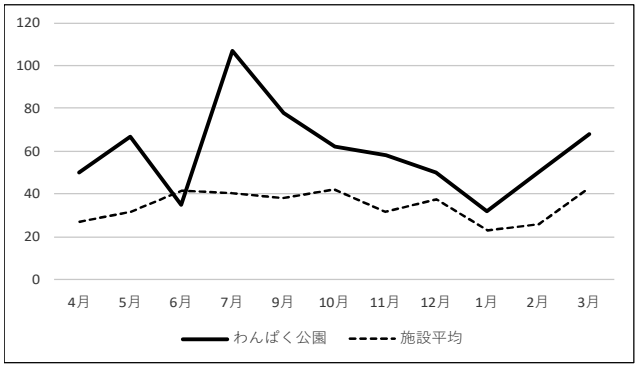
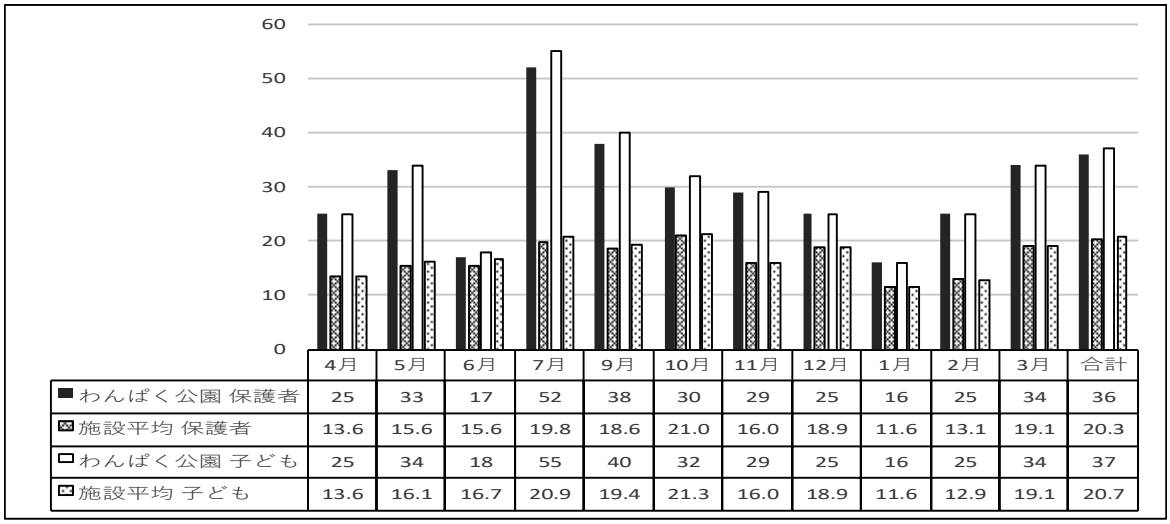


図２　子育てひろば参加者数（名）：月別（2012 年度）



	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
わんぱく公園 保護者	25	33	17	52	38	30	29	25	16	25	34	36
施設平均 保護者	13.6	15.6	15.6	19.8	18.6	21.0	16.0	18.9	11.6	13.1	19.1	20.3
わんぱく公園 子ども	25	34	18	55	40	32	29	25	16	25	34	37
施設平均 子ども	13.6	16.1	16.7	20.9	19.4	21.3	16.0	18.9	11.6	12.9	19.1	20.7

図３　子育てひろば参加者数（名）：保護者・子ども別（2012 年度）

者数が多いことが分かる。図３は保護者と子ども別に参加者数を分け、わんぱく公園と全施設の活動拠点の平均を月毎にグラフであらわしたものである。すべての月においてわんぱく公園の保護者及び子どもの参加者が全施設の平均を上回っていることが分かる。

このことから子育てひろばの戸外での活動は、参加者のニーズが高いと期待できる可能性が示された。

また各月の活動終了時に行われた指導者から個々の保護者への聞き取り調査の中で得られた感想について、主なものを以下に示す。

・普段ではできない体験が親子共々できた。
・子どもがとてもよく動いてくれるので、夜しっかり寝てくれた。
・先生や保護者同士の関係が気さくに感じられた。
・私（保護者）は虫が嫌いだが、子どもには自然を体験させたい。

4　つぼみ組（月曜日）

4.1　概要

和歌山信愛幼稚園での子育て支援の活動は、つぼみ組と呼ばれ未就園児とその保護者との親子教室である。月・水・木・金曜日の４クラスの内から１つ選び週に１回、５月～翌年３月まで実施される。原則的に保護者が選択したクラスで１年間過ごす。参加費は１回につき 500 円を徴収する。加えてつぼみ組クラス合同で遠足や体育プログラムを別日に設定した。また園主催の夏祭りや運動会などの行事にも参加できるようにした。4 クラスとも主に室内での活動が中心となっていたが、月曜日のクラスを戸外中心のプログラムとした。本研究は 2013 年度の実践を報告する。

当園の 3～5 歳児のクラスは年齢別クラス編成ではなく、1 クラスに 3・4・5 歳児を混合して編成している（縦割りクラス）。希望の家族は子どもの発達段階を考慮の上、満 3 歳の誕生日を迎えると縦割りクラスに「桃組さん」として入園を受け入れている。

4.2　実施内容

つぼみ組月曜日の実施にあたって、下記に示すねらいとプログラムの進め方及び基本的な１日の流れ等を保護者に参加要項として書面で周知した。指導者は、筆者と担当者２名（内保育士１名）の計３名で行った。

つぼみ組（月曜日）参加要項（以下、原文そのまま）

①ねらい

戸外を中心とした遊び（活動）を通して、心身のバランスがとれた健康を育み（ひとり遊びから集団遊びへ）、また親と子がより深く関わることにより精神的な自立（母子分離）を促します。

②プログラムの進め方

１つのテーマで２～３回（週）行ない回を重ねるごとに

各々親子での遊び（活動）を深めていきます。年齢（月齢）や性別、性格等により、お子様の興味や関心、取り組み方が違ってきます。保護者の方は、その点を十分ご留意いただき、親と子の関わりを積極的に楽しんでいただければと考えています。

③服装と持ち物

動きやすい服装、帽子、運動靴でおこし下さい（親子とも）。必ず用意していただく物：水筒（お茶）、ハンカチ、ティッシュ、着替えの下着、雨天の場合は上靴（スリッパ不可）。なお、テーマ別プログラムで必要なものは、その都度ご案内します。

④1 日の流れ

- 9 時 50 分　受付（園庭の一角にプルーシート設置）
  各自、自由あそび。
- 10 時 20 分　集合（園庭）
  ごあいさつ・手遊び・歌
  リズム体操
- 10 時 30 分　メインプログラム（主活動）の説明・
  諸注意
- 10 時 45 分　プログラム開始
- 11 時 20 分　プログラム終了（片付け）・集合
- 11 時 25 分　次回のインフォメーション
- 11 時 30 分　ごあいさつ（さようなら）

また 2013 年度に実施したプログラム内容を、表 2 に示した。指導者が保護者に向けて遊び方の伝達をすることにより親子の遊びの工夫が広がり深まった海南市の子育てひろばの経験から、1 つのテーマを複数回行うターム制を採用し実施した。1 回で完結するのではなくテーマに連続性を持たせることにより保護者自身が次何しようと考えたり、自分の子どもにあった物（そのテーマに沿った遊具など）を持参するようになり、遊びが深まった。またそこから保護者間でコミュニケーションを取り合ったり、共通した遊びを体験する子ども同士が関わりを深めていくような場面がみられた。

4.3　結果

つぼみ組の参加状況（5 月スタート時）を、図 4～7 に示した。図 4 は 2010～2013 年度の 4 年間のつぼみ組の参加者数（組）の合計をグラフで表したものである。過去 3 年と比較してみると、参加者数が増えた。図 5 は、2013 年度の参加者数（組）を曜日別にグラフで表したものである。月曜日のクラスが他の曜日と比べてほぼ倍増しているのが分かる。図 6 は 2012 年度、図 7 は 2013 年度の参加者数（名）を男女別にグラフで表したものである。月曜日のクラスにおいて、戸外中心のプログラムにした 2013 年度（図 7）と室内で行った 2012 年度（図 6）と比較すると、参加者数が倍増した。また月曜日のクラスで戸外遊び参加する子どもの男女児を比較すると月曜日の男児の参加が高いことが分かった。以上のことから戸外プログラムを導入した月曜日クラスを実施することで参加者数（特に男児）の増加につながると期待できる可能性が示された。

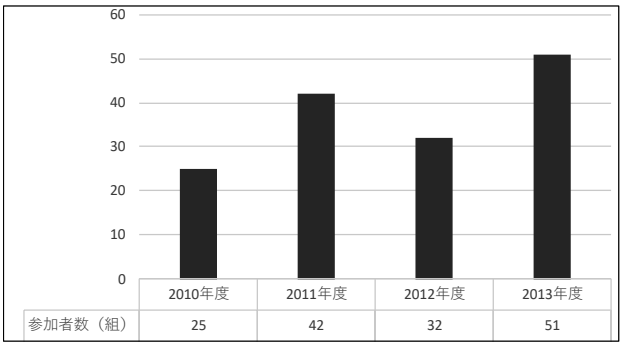


図 4　つぼみ組参加者数（組）：年度毎（2010～13 年度）

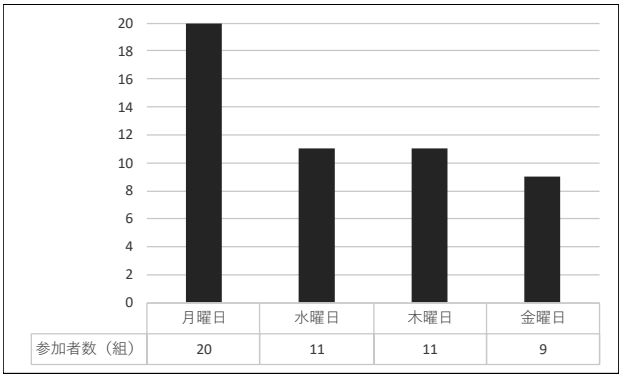


図 5　つぼみ組参加者数（組）：曜日別（2013 年度）

また 2013 年 12 月に行った保護者からのアンケート調査（図 8、回収率 100%）で得られた回答の中から、主なもの

を以下に示す。

・家で思いっきり遊ぶというわけにはいかないので、ダイナミックに楽しめた。

・ただ単に子どもが遊んで楽しむというだけでなく、先生や子ども達や親とのふれあいが楽しめた。

・遊び方を教えてもらって、また家族でやろうと思います。

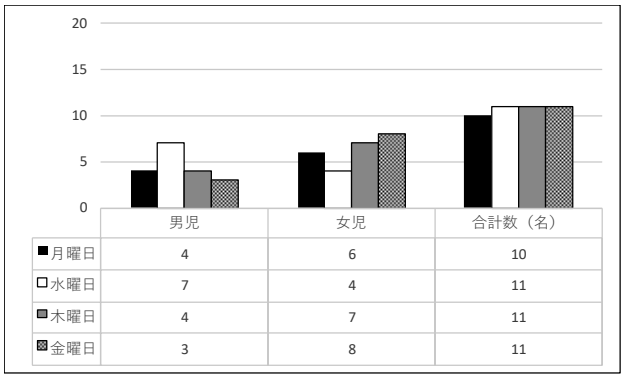
・保護者の側からみて、いろんなお子さんがいる（一人ひとり個性がある）というのが、様々な家族が集まった形の体験で改めて分かった。

・子どもとの遊びに色々なアイデアを先生からもらえて更に楽しめた。

表２　つぼみ組（月曜日）　実施プログラム（2013 年度）

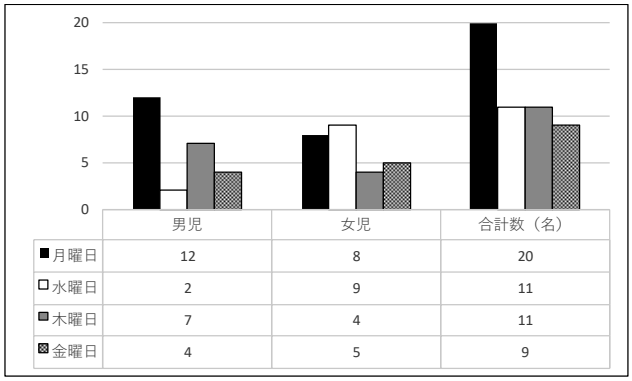
年間テーマ：めざせ！月曜げんきキッズ　～元気に身体を動かそう！～

ターム	日程	回数	ねらい（テーマ）	内容（プログラム）
①	5/13・20	2	ようこそ、つぼみ組！先生・遊具になれましょう！（安全な遊具の使い方（ルール）を知りましょう。）	『ゆうぐでビンゴ！』
②	5/27・6/3	2	春のしぜんを見つけよう！（虫や草花をさがそう・ふれよう・かんじよう！）	『宝ものさがし』
③	6/10・17	2	光や風を感じながら　あそぼう！	思いっきり！シャボン玉あそび
	7/2（火）		七夕集会（自由参加）	
	7/6（土）		夏まつり（自由参加）	
④	6/24・7/1・7/8・9/9	4	夏あそびを十分たのしもう！	水であそぼう！（水あそび・プール遊び・・・・・いろいろ）
⑤	9/30・10/7	2	運動会ごっこであそぼう！	かけっこしよう！　玉入れしよう！
	10/6（日）		運動会（自由参加）	
	10/22（火）		合同プログラム①（遠足）　片男波	
⑥	10/28・11/11・18	3	秋のしぜんを感じよう！	落ち葉やどんぐりなどにふれよう、あそぼう！マラカス
⑦	11/25・12/2	2	みんなであそぼう、集団遊び！①	ごっこあそび、わらべ歌あそびで楽しもう！
⑧	12/9・16	2	北風とあそぼう！	風を使ってをとばそう！　パラシュート
⑨	1/20・27	2	伝承遊びをたのしもう！	お正月遊びでたのしもう！　こままわし、凧揚げ、缶ぽっくり、ジャンボすごろくであそぼう
⑩	2/3・10・17	3	みんなであそぼう、集団遊び！②	ごっこあそび、わらべうたあそび、お留守番ごっこ
	3/1（土）		合同プログラム②（ふれあいあそび）　ホール	
⑪	3/3	1	１年間をふりかえろう！	さよならパーティ
	合計回数	25		
雨天プログラム			体育あそび（１本橋、トンネル、トランポリン、ラダー、バランスボール、フープ）、スタンプでビンゴ、風船であそぼう、しんぶんしであそぼう、ぱっちんガエルであそぼう	



	男児	女児	合計数（名）
■月曜日	4	6	10
□水曜日	7	4	11
▩木曜日	4	7	11
▨金曜日	3	8	11

図６　つぼみ組参加者数（名）：男女比（2012 年度）



	男児	女児	合計数（名）
■月曜日	12	8	20
□水曜日	2	9	11
▩木曜日	7	4	11
▨金曜日	4	5	9

図７　つぼみ組参加者数（名）：男女比（2013 年度）

2013.12

つぼみ組（月曜日）　アンケート記入 ご協力のお願い

平素より本園の教育に、ご理解とご協力を賜わり、誠にありがとうございます。
今年度より、戸外活動を中心としたつぼみ組（月曜日）を実施しておりますが、
皆様のご意見・ご感想をいただき、より良いプログラムの発展・充実をはかろうと考えております。
つきましては下記のアンケートにご記入下さい。
お忙しいところとは存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。
締め切りは、１２月９日（月）とさせていただきます。

1．親と子どもの関わりを深めていただくために、1つのテーマ（ターム）を２～４回（週）行なっています。
各タームごとのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

ターム

①	ようこそ、つぼみ組！先生・遊具になれましょう！（安全な遊具の使い方（ルール）を知りましょう。）	『ゆうぐでビンゴ！』

＜○印をお願いします＞
1．積極的に取り組めた　2．取り組めた　3．ふつう　4．あまり取り組めなかった　5．全く取組めなかった
＜ご意見・ご感想（ご自由に…）＞

②	春のしぜんを見つけよう！（虫や草花をさがそう・ふれよう・かんじよう！）	『宝ものさがし』

＜○印をお願いします＞
1．積極的に取り組めた　2．取り組めた　3．ふつう　4．あまり取り組めなかった　5．全く取組めなかった
＜ご意見・ご感想（ご自由に…）＞

③	光や風を観じながら　あそぼう！	思いっきり！シャボン玉あそび

＜○印をお願いします＞
1．積極的に取り組めた　2．取り組めた　3．ふつう　4．あまり取り組めなかった　5．全く取組めなかった
＜ご意見・ご感想（ご自由に…）＞

④	夏あそびを十分たのしもう！	水であそぼう！（水あそび・プール遊び・・・・・いろいろ）

＜○印をお願いします＞
1．積極的に取り組めた　2．取り組めた　3．ふつう　4．あまり取り組めなかった　5．全く取組めなかった
＜ご意見・ご感想（ご自由に…）＞

⑤	運動会ごっこであそぼう！	かけっこしよう！　玉入れしよう！

＜○印をお願いします＞
1．積極的に取り組めた　2．取り組めた　3．ふつう　4．あまり取り組めなかった　5．全く取組めなかった
＜ご意見・ご感想（ご自由に…）＞

裏面へお願いします

図 8-1　つぼみ組（月曜日）アンケート調査（表面）

	合同プログラム①（遠足）　片男波	

＜○印をお願いします＞
1．積極的に取り組めた　2．取り組めた　3．ふつう　4．あまり取り組めなかった　5．全く取組めなかった
＜ご意見・ご感想（ご自由に…）＞

⑥	秋のしぜんを感じよう！	落ち葉やどんぐりなどにふれよう、あそぼう！　マラカスなど

＜○印をお願いします＞
1．積極的に取り組めた　2．取り組めた　3．ふつう　4．あまり取り組めなかった　5．全く取組めなかった
＜ご意見・ご感想（ご自由に…）＞

⑦	親子であそぼう、集団遊び！①	ごっこあそび、わらべ歌あそびで楽しもう！

＜○印をお願いします＞
1．積極的に取り組めた　2．取り組めた　3．ふつう　4．あまり取り組めなかった　5．全く取組めなかった
＜ご意見・ご感想（ご自由に…）＞

2．つぼみ組に参加された全体の感想をお聞かせ下さい。

＜○印をお願いします＞
1．満足　2．やや満足　3．ふつう　4．やや不満　5．不満
＜ご意見・ご感想（ご自由に…）＞

3．つぼみ組で取り組みたいプログラム、やってみたいと思うものがあればご記入下さい。

4．子育て支援活動の一環としての親子教室「つぼみ組」は、どのようにお子様の育ちの一助となっていますか？できれば具体的に教えて下さい。

5．子育てに関する悩みや疑問などがあれば、ご記入下さい。

6．つぼみ組に期待することや、幼稚園にご意見・ご希望があれば是非お聞かせ下さい。

ご協力どうもありがとうございました。

図 8-2　つぼみ組（月曜日）アンケート調査（裏面）

5　考察及び提言

5.1　考察

戸外遊びを中心とした「子育てひろば」と「未就園児クラス　つぼみ組（月曜日）」の実践から子育て支援のあり方について検討した。活動の拠点を室内から戸外に移し、のびのびと身体を動かし、家では出来ない自然体験という非日常的な活動を体験する中で、子どもだけでなくその保護者も開放的・行動的になり打ち解けやすい雰囲気が生まれた。そこから親子の相互交流や育児相談という子育て支援の目的とするところに発展していったと考えられる。また、未就園児の子どもを持つ保護者にとって戸外あそびを中心とした自然体験活動を子どもに体験させたいというニーズがあることも分かった。以上のことから戸外を拠点とした自然体験活動は、子育て支援の目的を達成させるために効果的である可能性が示唆された。今後、実証性については行動観察等の調査に基づき、さらに検証を進めていきたい。

5.2　提言

保護者は子どもに自然体験活動をさせたいと思っているが、実際には身近に体験をさせる機会や場所に恵まれていない。また、そのニーズに応えることのできる指導者が少ないという現状がある。乳幼児に関わる保育士等の保育者が自然体験活動を含む野外教育の知識・技能の習得が不可欠であると考える。しかしながら保育現場でこのような研鑽を積むのは時間がかかるので、少なくとも養成施設や大学等の教育機関に在籍している学生の時期に習得することが望ましいと考える。

6　今後の課題

平成 29 年改訂の幼稚園教育要領の中に、幼稚園が地域における幼児期の教育センターとしての役割を果たし、子育てを支援することが明記されている。すなわち、幼稚園への通園の有無にかかわらず、地域の親子の子育てを支援していくことが園に期待されている。また和歌山県でも少子化が進み核家族世帯の割合が増え、地域のつながりが希薄化する近年の子育て環境の変化に伴い社会全体で子育て家庭を支援していくことが強く求められる時代となった。

このことから戸外遊びを中心とした自然体験活動を用いた子育て支援のアプローチは、室内から戸外を拠点に移した活動として効果的な役割を担うものと考えられる。そのためには自然体験活動を含む野外教育の知識や経験に基づいた技能を持つ保育者の育成をいかに担保できるかが重要であり、そのための育成プログラム開発が今後の研究課題となる。

謝辞

今回の研究に協力いただきました海南市教育委員会生涯学習課並びに東方貴子氏、和歌山信愛幼稚園の先生方に感謝いたします。

引用・参考文献

東義也・石田一彦・佐藤陽子・杉山弘子（2006）「宮城県における子育て支援の実態（4）：幼稚園での地域子育て支援活動の問題点と課題」『尚絅学院大学紀要』53 pp.49-57

請川滋大・新山裕之（2015）「幼稚園における子育て支援活動としての親子遊びの会：「園長先生とあそぼう」の実践から」日本女子大学紀要　家政学部』62　pp.11-19

厚生労働省（2017）『保育所保育指針』フレーベル館

厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領』フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説』フレーベル館

中村俊之（2021）「幼稚園における園外保育の実施に関する研究：10 年間にわたる自然体験活動に着目して」『わかやま子ども学総合研究センタージャーナル』2 pp.51-56

成田保鶴（2019）「児童館を中心とした子育て支援活動についての保護者視点からの考察」『人間科学研究』32（1）p.115

藤井伊津子・高田康史・秀真一郎・雲津英子・近江望・栗田喜勝（2019）「アウトリーチ型地域子育て支援活動への参加学生の学び：未就園児親子への「出前講座（親子ふれあい遊び）」の実践から」『吉備国際大学研究紀要（人文・社会科学系』29　pp.109-124

文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』フレーベル館

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

谷田貝公昭（2019）『改訂新版　保育用語辞典』一藝社